



おもしろスポーツルール

1. レスリング：「チャレンジ」というビデオ判定を要求できる

セコンドがスポンジをマットに投げて要求し、マットチェアマンに認められたら会場の大型映像装置に映し出すというもの。

なお、判定が覆らなかった場合は「チャレンジ失敗」と呼ばれ 1 ポイントを失い、チャレンジ失敗は 1 試合につき 2 回まで。

2. サッカー：審判は審判にもレッドカードを出せる

1998 年 4 月、メルビン・シルベスター主審が試合中相手に後ろから突き飛ばされた事に腹を立てて、その選手を殴り飛ばした後で自分自身にレッドカードを出して退場。

その後その審判は 6 か月の資格停止処分と 20 ポンド（約 4500 円）の罰金が科せられた。

3. ラグビー：引き分けの場合、会議室で抽選

同点の場合

トライ数が多い方(高校はここまでかも)

トライ数が同じ場合はトライ後のゴール数が多い方

同点の場合、結局、規定により両チームによる抽選が行われ、NECが「抽選勝ち」して二回戦に進出した。

4. フィギュアスケート：脇毛や胸毛が見えたら減点

男子フィギュアの場合は、「脇毛が見えてはいけない」と正式に決められていて、ワキ毛が見えてしまうと、減点対象になってしまう事を明かした。

5. ゴルフ：犬がボールを加えていたら落としたりしたところからスタート

犬が球の方向を変えた場合は、球の止まっている所から罰なしにその球をあるがままの状態プレーすることになる……規則 19-1。

また、犬が球をくわえ上げた場合は、プレーヤーは犬にくわえ上げられたときその球があった箇所にてできるだけ近い地点に球を罰なしにプレースしなければならない……規則 19-1a。

6. ゴルフ：バンカーに死んだカニがいたらどけてはいけない。

取り除くことはできない。死んでいる蟹も自然物であり、したがってルースインペディメントであり障害物ではない。その蟹を除去した場合は規則 13-4 の違反となる。

7. 野球：「振り逃げ」は降らなくても逃げられる。

バットを振っていなくても 3 ストライク目にキャッチャーがボールを落としたり後ろにそらしたりすればこの振り逃げは成立するのです。

8. 野球：打順を間違えたらもう一回。

打順を間違えたまま打撃を終えるかアウトになった場合は、打撃結果は無効になり、打者はアウトになる。しかしアウトになるのは間違えて入られた打者につき、間違った打者は自分の打順が訪れるので再度打席に立つことができます。

9. 野球：打者が打席内で打撃姿勢をとらない場合

打者が打席内で打撃姿勢をとらない場合、主審は投手に投球を指示し、その投球の全てをストライクとする。（ワンバウンドでもバックネットに直撃させてもストライク）

10. 卓球：卓球台の上に飛び乗っても OK。

11. 剣道：一本取ってガッツポーズ。

剣道では一本取ったあとにガッツポーズをすると、その一本が取り消しにされてしまう。礼に始まり礼に終わる。

12. ボクシング：リングのロープで反則。

ボクシングのリングには四方にロープが張ってあるが、このロープに寄りかかったり、ロープの反動を使って攻撃したりはしてはいけない。またロープをつかむことも禁止。

13. テニス：プレー中、持ち物を落としたり失点！

ウィリアムズ姉妹のビーズが、泣きどころになった。「ビーズ失点」わずか6 2分で完敗した。

第2セットの第2ゲームだった。最初のポイントで、髪を振り乱したビーナスのビーズが、十数個落下。主審がこのポイントのやり直しを宣言した。

続く第3ゲームで、30 - 40と、ダベンポートがブレイクポイントを握った時、再びビーズが大量に落下。主審は即刻、ビーナスに失点を通告し、ダベンポートが3 - 0と完全な主導権を握った。

規則では、身につけた物がコートに落ちると、2度目以降から失点になる。

14. バドミントン：見えなかった審判

ライン際に入ったか入っていないか判断するのがバドミンントンの線審だ。この線審、もし自分でシャトルが入ったどうか判断できなかったときに両目をおおうジェスチャーをする。そして改めて主審が判定することになる。

ちなみに、バドミントンでは線審が下した判定は絶対で、主審させくつがえすことはできない。そのぶん線審はそのジャッジに慎重であり、「よく見えませんでした」と正直に判定することが用意されている。